

Panasonic

建築設計 REPORT

ARCHITECTURAL DESIGN REPORT
vol.38 2021・08

特集——高度化する文化情報発信施設



村松 亮太郎

Muramatsu Ryotaro [アーティスト、NAKED, INC.代表]

五感に訴える体験を
世界中の人たちに届けたい

かつて映画館でスクリーンに投影されていた映像は、デジタル化され、大型ディスプレイやプロジェクターにより大空間に投影されるようになった。同時にデジタル化された映像は、よりパーソナルな感動表現をも生み出すための一つのツールにもなった。東京駅のプロジェクションマッピングでその名を馳せ、日本のデジタル映像の第一人者として先頭を駆けつづけているアーティスト、NAKED, INC.代表の村松 亮太郎氏に、感動を生み出す表現が秘める可能性と未来をたずねた。

表現の「コア」にこだわり 表現手法の境界を越える

— NAKEDが注目されていますね。

NAKEDを設立したのは1996年、ちょうどインターネットが始まった頃です。当時のPCは処理能力もストレージも今よりずっと貧弱でした。僕が表現したかった映像は、デザインや音楽と違ってはるかに情報量が多いので、市販PCはそのままでは使えません。ネットなどで情報を集めて独学で改造を加えていました。日本ではその頃、デジタル映像を動かす人は、まだそんなにいませんでした。試行錯誤で、動くデザインと言われるモーショングラフィックを行っている、広告やテレビのタイトルバックの仕事が依頼されるようになりました。そしてデジタルでデザインをしている人やDTP (Desk Top Publishing) に挑戦する人たちと繋がり、放送局や広告代理店との仕事も増えてきました。そうなると会社組織が必要だということでNAKEDを設立することになったのです。

NAKEDの3つのコンセプトは、この時に作りました。「コア・クリエイティブ」と「ボーダレス・クリエイティビティ」、「トータル・クリエーション」。表現の根っこにある「コア」にこだわり、そして、その表現を創り出すためには、表現手法の境界にこだわらず、ボーダレスに活動する。この相乗効果で、トータルな一つのクリエーションに高めていく。そのようにして表現を創り出す活動をしているうちに、いつの間にか皆さんが集まってくれるようになってきたと思います。

CONTENTS

特集：高度化する文化情報発信施設

SPECIAL INTERVIEW	
村松 亮太郎 氏	1
SPECIAL EDITION	
ウボポイ(民族共生象徴空間) 国立アイヌ民族博物館	5
メットライフドーム	9
新宿ウオール456	13
ところざわサクラタウン	15
KADOKAWA 所沢キャンパス	19
くらしは文化	
豊橋市公会堂	21

*本誌では略称を用いています。また、一部敬称は略させていただきます。
表紙写真：ウボポイ(民族共生象徴空間) 国立アイヌ民族博物館

PCで映画が作れる時代が創造の幅を拡げた

— なぜ、映像表現を選ばれたのですか。

高校生の頃、自分の道を探っていた時、僕はまず、関心があった映画の世界に入ろうと考えました。俳優にはなったのですが、自分が思うままの表現が許されずプロダクションと衝突。そんな時、兄貴が見せてくれたPCで稼働する画像処理ソフトに衝撃を受けました。それまで映像所に出さなければいけなかった写真が、自分でさわれるのです。

当時、自分が思う表現を形にするために編集スタジオを作りたいと考えたことがありましたが、数億の費用がかかると言われて諦めていました。しかし、フィルムやテープを専用機器で編集するのではなく、PCで映像を直接編集し、映画を制作する時代が、もうそこまで来ているとも聞きました。それは、デジタルビデオが登場した頃です。デジタルビデオの画像をPCで編集すれば、自分が思うままの作品ができるのではないかと。そう思って取り組みはじめましたが、ここからが大変でした。すべて自分でシナリオを書き、俳優をし、撮影して、音楽を付け、PCで編集する。当然、タイトルのデザインもPCで作る。表現の始まりは映像でしたが、音楽、デザインも含めて、創造の幅が広がっていったのです。



東京駅3Dプロジェクションマッピング『TOKYO HIKARI VISION』(2012年) © 東京ミチテラス 2012

映像の新時代を拓いたプロジェクションマッピング

— 東京駅のプロジェクションマッピングは衆目を集めました。

東京駅の映像演出は、世の中に3Dプロジェクションマッピングを大きく知ってもらうきっかけとなった仕事でした。あれは東京ミチテラス2012という丸の内仲通りを演出するプロジェクトだったのですが、東京駅自体も改修してお披露目するタイミングで、表現方法を議論するうちに「駅舎にプロジェクションマッピングをしよう」となりました。これは、プロジェクターの性能向上や、機器のデジタル制御が可能にしたのです。僕は、メディアや技術の発展と表現は切っても切れない関係にあると考えています。もちろん、表現したいものが先にあるの



食×アートの体験型レストラン『TREE by NAKED yoyogi park』 ©naked inc.

ですが、技術の発展がなければ、今やっている表現には繋がりません。一方で、表現手法にはこだわりはなく、デジタルでもアナログでもどちらでもよい。映画が本か音楽か、手法やツールはその次で、最終的に何を伝えたいのか、どのような感動になれば良いのか、何が美しいのかが大切。バックエンドにそれがあれば良いと考えています。

感動を生み出す新たな表現の可能性

— 映像空間からリアル空間へとステージが広がりました。

映像という表現を追求していた時は、視覚と聴覚に訴える表現で感動を紡ぎ出していました。ところが、リアル空間を対象とすると、さまざまな角度から多様な感じ方をさせる面白さがあります。シーンをつくり出すという意味では映画を作っていた時と何も変わっていないと思うし、物語性がその背景にあるということも同じです。リアル空間で感動を生み出す表現を探っていった結果、自ずと五感で感じるものになっていったのでしょう。それを最初に意識したのが『NAKED FLOWERS』です。これは、都会の中に誰も見たことがない秘密の花園を創り出そうという企画で、多くの人に共感を持って受け入れられました。ここではデジタルを強調するのではなく、皆が楽しめるように自然と融合したものをめざしました。テーマが花なので「匂い」が関わり、木肌にさわる感覚も良いので「さわる」にもこだわりました。このように、当初のコンテンツから多様な感覚に訴える要素が入っていたのです。五感というコンセプトを考えたとはいえ、その空間が結果的に「五感で感じる」というコピーに集約していったのです。

村松 亮太郎氏

アーティスト、NAKED, INC.代表。大阪芸術大学客員教授。長野県・阿智村ブランディングディレクター。1997年にクリエイティブカンパニーNAKED, INC.を設立以来、映画やテレビ、MV、広告、空間演出など、ジャンルを超えてさまざまなプロジェクトを率いてきた。監督作品は長編/短編合わせて国際映画祭で48ノミネート&受賞。近年では『FLOWERS BY NAKED』『TOKYO ART CITY BY NAKED』などのイメージ（没入型）イベントや、華道・茶道・香道・歌舞伎・能狂言といった伝統文化・芸能と先進の表現を掛け合わせたインスタレーションや公演を手がける。大阪芸術大学で客員教授を務めるほか、ブランディングディレクターを務める長野県・阿智村をはじめ大阪府・堺市や佐賀県など日本各地での地方創生イベントや文化プロジェクトに取り組む。2018年には個人アーティストとしての創作活動を開始し、国内外で作品を発表。

エポックメイキングなスペースプレーヤー

— 『TREE by NAKED』では食を提供されていますね。

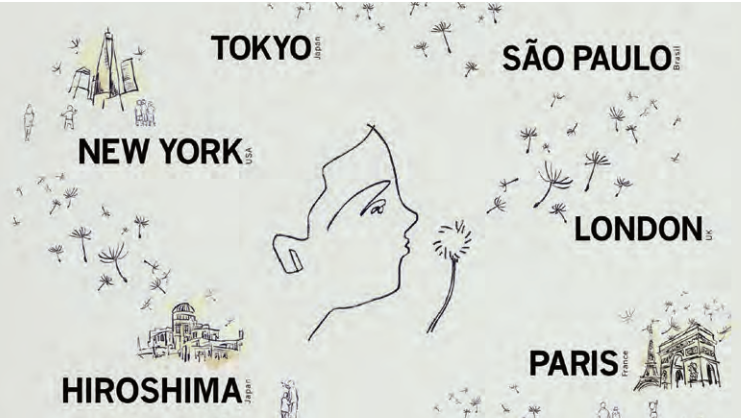
『TREE by NAKED』は食×アートの体験型レストランと銘打っているもので、東京・代々木公園と岐阜県多治見市でサービスを提供しています。VR技術・プロジェクションマッピング・照明・音楽・美術造作によって空間全体を演出し、たとえば、代々木公園のお店では地下1階から2階までの3フロアを移動しながら食とアートが融合する体験をお届けしています。食自体がアートであり、さらに食という体験そのものがアートといえます。シーンをつくるという視点で考えて、人が集って楽しめる空間に、アートとしての食を提供できないかと考えました。東京駅でプロジェクションマッピングをしたときには約30万人を超える人びとが集まったのですが、時を経るとその驚きも薄れ、感動が当たり前ものになっていきます。あの感動をくらしに近づけたら、僕たちの表現はどうなっていくのだろうと考えたときに、一つの形として当然のように食を取り入れていくことになりました。ここではスペースプレーヤーを採用しています。あれはとてもエポックメイキングな製品だと思っています。素敵な建築に大きく四角いプロジェクターが入ってくると違和感がありますし、照明も必要になります。ところが、プロジェクターであり照明のようにも使えるという、いくつかの課題を解決しようとしたのがスペースプレーヤーだったのでしょう。アートをテーマとしたレストランで使うには非常に相性が良いと感じました。実は、スペースプレーヤーが発表されたときから、僕はものすごく応援していたのです。



ノンバーバルの感動をグローバルにネットワーク

— 現在は何を手掛けられているのでしょうか。

コロナ禍になるまで、世界中から仕事の依頼が増えていました。言葉に依らないグローバルな表現は、どこの国の人にも理解されやすいものです。NAKEDが手掛けたその一つが『Breath Bless project』で、「平和への祈りを、アートで繋ぐ。」をコンセプトに、世界中のあらゆる地点を結びながら、人びとが参加することで成長するアート作品を創り出しました。たんぽぽの綿毛を飛ばすように「Dandelion」に息を吹きかけると、その綿毛は遠く離れたまちに舞い移って花を咲かせます。さまざまなまちから発せられる「Breath（吐息）」が、平和を願う「Bless（祈り）」の種となって世界に広がるインスタレーションです。これは、リアルとバーチャルがシンクロして、ネットワークそのものが国境を越えるアートとして成長し続けるものです。



『Breath / Bless Project』(2020年～2021年) ©naked inc.

この進化したバージョンを『NAKED GARDEN ONE KYOTO』として開催しようという計画があります。二条城に留まらず、平安神宮、平等院鳳凰堂、仁和寺、東福寺、清水寺など、十数カ所の神社仏閣が宗派を超えて、また産官学が連携して、世界平和のアートを京都から始めようというものです。日本庭園のように多様な要素が共存する京都を一つの庭に見立て、世界に向けて世界平和のアートを発信し、そのあとは、シンガポール、香港、パリ、ニューヨークなどとも繋げていこうとしています。

僕は、たまたま映画という表現から入りましたが、より豊かなものを伝えるために目や耳だけでなく五感をすべて使いたいと考えるようになりました。同時に技術進歩により、表現手段も多彩になっています。映像や音楽や言葉だけでは伝わらない感動、それをコアとして、これからも探っていきたいと思っています。

— ありがとうございました。

NAKED, INC. - YouTube







先住民族アイヌの歴史と文化を伝える 日本初・日本最北の国立博物館

アイヌ文化の復興と発展のナショナルセンターとして北海道白老町のポロト湖を中心に整備された「ウポボイ（民族共生象徴空間）」。その中核施設の一つである国立アイヌ民族博物館は、アイヌ文化の展示、教育普及、収集保存、調査研究、人材育成を担う博物館として計画された、東京・京都・奈良・九州などと並ぶ、8番目の国立博物館である。延べ面積約8,600m²の規模を有する博物館は、1階にショップやライブラリなどのパブリックスペースと調査・研究部門を配し、2階に展示室と収蔵庫を配置。2階の面積は1階よりも広く取られ、伝統的な高床式の倉のような特徴的な外観となっている。パブリックスペースの天井には、3連アジャスタブルダウンライトを配置してレイアウト変更にも対応。照射方向を室内に向けることで、窓ガラスに照明が映り込むことなく屋外が楽しめるように計画されている。また、2階のウポボイの広大な展望が楽しめるパノラミックロビーでも、窓を外側に大きく傾斜させるとともに、傾斜天井にグレアレスダウンライトを配置。窓の上下にライン状の建築化照明を配することで、内側からの映り込みを軽減し、柔らかな外光が広がるように配慮されている。

展示室は、基本展示室（1,250m²）と特別展示室（1,000m²）で構成され、大型展示に配慮して基本展示室で6.5m、特別展示室でも6mの天井高が確保された。ここでは、タブレット操作が可能なムービングスポットが導入され、展示替えの負担を大幅に軽減している。さらに、アイヌ文化への関心を高めるために、グリーンシーズンの夜間営業時には、映像・電飾・園内を幅広くカバーする音響などが連動するプロジェクションマッピングを体験交流ホールの外壁や川や丘、神々しいユク（鹿）のオブジェに実施。光と映像の演出が好評を博している。ウポボイはアイヌ語で「（おおぜいで）歌うこと」を意味しており、多様な人びとが集い、アイヌ文化の復興と発展が期待されている。

◀（上）ムービングスポットが「鳥」を照射している基本展示室。壁面にはイメージ映像がプロジェクターから投写されている
（下）2021年7月3日～8月22日の期間中、『ゴールデンカムイ』（野田サトル作／集英社「少年ヤングジャンプ」連載中）の特別展が開催された特別展示室



国立アイヌ民族博物館

所在地／北海道白老町
事業主／文化庁
企画・監修／国土交通省北海道開発局営繕部
管理・運営／公益財団法人アイヌ民族文化財団
設計／株式会社久米設計
照明デザイン／有限会社サワダイティングデザイン&アナリシス
建築工事／竹中・田中特定建設工事共同企業体
電気工事／末廣屋電機株式会社
機械工事／株式会社日立プラントサービス
展示設計／株式会社丹青社
展示工事／株式会社日展
オープン／2020年7月



天然スレート張りの外壁の上にゴザ模様を表現したレリーフが設置された正面入口

©野田サトル／集英社



3連アジャスタブルダウンライトの光がガラス面に映り込まないよう計画されたパブリックスペース

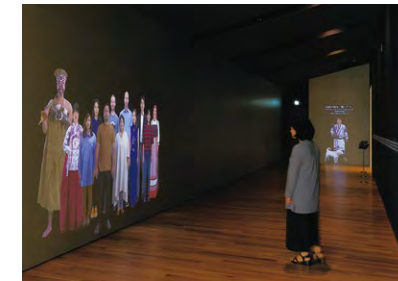


壁面一杯に館内案内が投写され、6面マルチディスプレイが配置されたエントランスロビー



アイヌ文化や歴史を取り上げた書籍を中心に閲覧できるライブラリ

©（公財）アイヌ民族文化財団



歩く人の動きに合わせて4台のプロジェクターが映像を投写し基本展示室にいざなう



（上）体験交流ホール外壁のプロジェクションマッピングショー
（下）プロジェクションマッピング用レーザープロジェクター

ウポボイ（民族共生象徴空間）



- ① いざないの回廊：カンカン
- ② 歓迎の広場：ウエランカラバ ミンタラ
- ③ エントランス棟：ホシキ アン チセ
- ④ 体験交流ホール：ウエカリ チセ
- ⑤ 体験学習館：ヤイハノツカラ チセ
- ⑥ 伝統的コタン：テエタ カネ アン コタン
- ⑦ 工房：イカラ ウシ

主な納入設備

- アジャスタブルダウンライト
- グレアレスダウンライト
- ムービングスポット
- デジタルサイネージ
- レーザープロジェクター
- プロジェクションマッピング用レーザープロジェクター
- スペースプレーヤー

ウェブサイトでも
ご覧いただけます





バックネット裏スタンド地下の、グラウンド内も望めるアメリカン・エクスプレス プレミアム™ ラウンジでは建築化照明とグレアレスダウンライトがラグジュアリーな空間をつくり出している
左壁面のプロジェクター映像やメニューを表示しているカウンター上部サイネージは、ホームラン時には、その内容に映像ジャックされる。左の投影壁面はケイミュー株式会社の「SOLIDO」



全世代が楽しめるボールパークを 照明・映像・音響で一体運動演出

埼玉西武ライオンズの本拠地球場「メットライフドーム」が、2021年3月、大規模改修によって「ボールパーク化」を遂げた。大型表示装置「Lビジョン」の高さを2倍にし、ドームの外側に憩いの場としても利用できるDAZNデッキを開設。バックネット裏スタンドの地下に483人が収容可能なプレミアムラウンジを設置するとともに、フードエリアなどの飲食施設も整備された。

「小さなお子様から女性、シニアまで、あらゆる世代が快適に観戦できる環境を用意する『ボールパーク化』を目指した」と株式会社西武ライオンズ ビジネス開発部のマネージャー加藤 大作氏。「まず、お客様がここで得られる体験をいかにデザインするかを検討し、試合前のワクワク感をどのように醸成して、ホームランや勝利の瞬間など歓喜の時間を増幅できるかを考えた。それをもとに、必要な装置や機材を選定し、演出内容まで踏み込んで考えて、コンテンツを制作した。かつて野球場は観客席に3時間座って試合を観戦するというスタイルだったが、今回の改修では施設内の回遊性を高め、グルメを楽しみ、お子様を遊ばせることもできる球場を目指した。同時に、スタジアム照明をDMX※制御ができるLED投光器に変更し、音響も一新してスピーカーも増設。サイネージも球場各所に301台導入し、これらの照明・映像・音響設備を一体運動演出して、球場のどの場所にいても何をしていても一体感が感じられることを狙った。これまでホームランなどのシーンごとにスイッチングが必要だった各設備をワンクリックで連動する総合演出システムで制御できるようになった。

2008年に、埼玉の名前を球団名に付け、2018年からは埼玉県内全ての小学生にキャップを配り、将来のファンづくりを目指している。これも地域密着により地域貢献していきたいという思いから。これからも地域に愛される球団に育っていき」と語る。

※DMX:照明器具を調光・制御するための通信規格

◀ (上) Lビジョンと連動するLED投光器が円形のドーム天井を囲む
(下) ホームラン時にはLビジョンの演出と同時に走者と同方向にLED投光器の光が走る



メットライフドーム

所在地 埼玉県所沢市上山口
建築主 西武鉄道株式会社
設計 KAJIMA DESIGN
ラウンジ内装設計 株式会社イリア
施工 鹿島・西武特定建設工事共同企業体
電気設備工事 株式会社関電工
映像設備工事 パナソニックLSエンジニアリング株式会社
リニューアル竣工 2021年3月



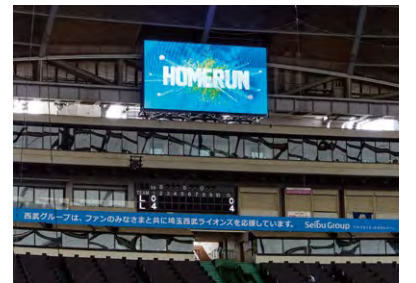
アメリカン・エクスプレス プレミアム™ ラウンジのバーエリア



アメリカン・エクスプレス プレミアム™ ラウンジのビューフェエリア



ラウンジのグラウンド側に設けられたアメリカン・エクスプレス プレミアムエキサイト™ シート



バックネット裏に設置されたセンターフィルのサブビジョン



憩いの場としても利用できるDAZNデッキにも大型ビジョンが設けられている



球場内各所に配置されたデジタルサイネージ



ホームラン時などに照明演出されるトレイン広場



放送室の総合演出システム操作卓

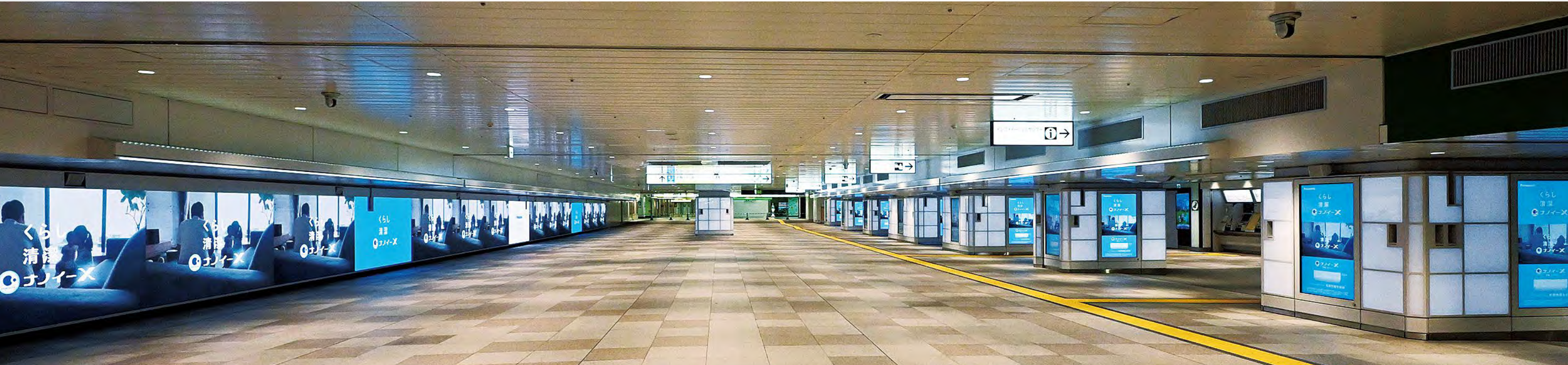
主な納入設備

- LED投光器
- LEDグレアレスダウンライト
- LEDライン照明
- ライトアップ演出用照明器具
- 大型映像表示装置
- デジタルサイネージ
- 総合演出システム
- 屋内壁「SOLIDO」(ケイミュー株式会社 製)

ウェブサイトでも
ご覧いただけます



*画像提供:株式会社西武ライオンズ



(上) 45.6mにもわたる『新宿ウォール456』<左壁面>と『J・ADビジョン』<右列柱>の環境演出放映時 (下) 15面分割表示の広告放映時

新宿ウォール456

SHINJUKU WALL 456

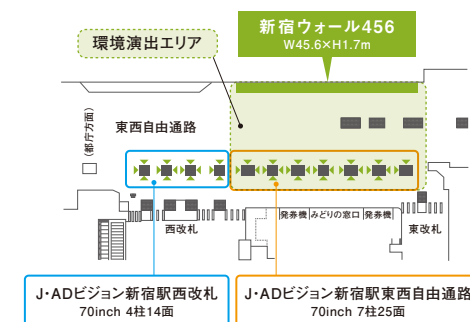
新宿駅東西自由通路に登場した 国内最大規模の大型サイネージ

世界一の乗降客(約370万人/日)が行き交う『新宿駅』。その核となる『JR新宿駅』周辺の回遊性を高めるため、2020年7月に東日本旅客鉄道株式会社は新宿駅東西自由通路を開通させた。それまで西口と東口は改札内の北通路が結び、大型ポスターやパネルによる広告スペースとして利用されていたが、自由通路でも、旧北通路と同等の広い壁面スペースが誕生するため、現代の駅にふさわしい空間演出が求められた。そこで誕生したのが株式会社ジェイアール東日本企画による横幅45.6m、高さ1.71m、国内最大規模の大型LEDサ

イネージ『新宿ウォール456』。横幅一杯を用いたコンテンツや画面を分割したコンテンツの放映に加え、音声演出も可能。39面の柱巻きサイネージ『J・ADビジョン』などとの連動により、多彩な情報発信が可能となっている。「新宿駅東西自由通路の媒体整備は、駅空間の環境整備を担う東日本旅客鉄道と共同プロジェクトで行い、空間演出も手掛けるデジタルアート集団『Moment Factory』も関わった」と語るのは、ジェイアール東日本企画交通媒体本部 デジタルサイネージ推進センター長 山本 孝氏。「これは広告媒体だが、今後は通行する人たちを楽しませる空間演出も企画している。このメディアの可能性を探っていきたい」と語る。

新宿ウォール456

所在地／東京都新宿区新宿
事業主／株式会社ジェイアール東日本企画、東日本旅客鉄道株式会社
竣工／2021年3月(放映開始は2021年5月)



主な納入設備

- LEDダウンライト
- LEDデジタルサイネージ

ウェブサイトでも
ご覧いただけます



●『新宿ウォール456』、『J・ADビジョン新宿駅東西通路』が、デジタルサイネージアワード2021 グランプリ受賞
(受賞者:株式会社ジェイアール東日本企画、東日本旅客鉄道株式会社)



(左上)2階レベルにある
角川武蔵野ミュージアムの
外壁ライトアップ
(右上)オフィスや印刷工場など
が入る本棟を北西から望む
(左下)左奥は本棟、
右は角川武蔵野ミュージアム
(右下)最大1,000人収容可能な
階段状の屋外イベント広場
「千人テラス」



最適な照明効果が
発揮できるように建築との
収まりが検討された



COOL JAPANを世界に発信する まちとしての文化複合施設

2020年11月、埼玉県所沢市に、工場や物流施設、オフィス、ミュージアム、イベントホール、ホテルなど、多様な施設によって構成された「ところざわサクラタウン」がオープンした。2014年に約4万m²にわたる浄化センター跡地を事業者公募で取得したKADOKAWAは、所沢市と共同で緑・文化・産業が調和したまちづくりに取り組む「COOL JAPAN FOREST 構想」を締結している。

「ここはKADOKAWAグループが手掛けているさまざまな事業を融合した複合文化施設。めざしたのは、多様な施設が渾然一体となる『まち』を創り出し、地域に貢献すること。このため、塀などを設けず開放的なものとして、市民が自由に行き交い交流できるようにした」と語るのは株式会社KADOKAWA レクリエーション事業局 渉外部 広報宣伝課の曲淵 優子氏。「現在はコロナ禍によりイベントなどに制限があるが、今後は多様なコンテンツの発信を強化し、多くの人が訪れることで、所沢全体を活性化させていきたい」と語る。

最初に目に入るのは、全体を石で覆われた、61面体で高さ31mの「角川武蔵野ミュージアム」。これにイベントにも対応できる中央広場を挟んで、手すりにエキスパンドメタルを用いたデッキが巡る5階建ての本棟が連なる。ここには出版物の製造・物流機能、オフィス「KADOKAWA 所沢キャンパス」に加え、飲食・物販店舗、最上階にはホテルも設けられている。設計を担当したKAJIMA DESIGN チーフアーキテクトの星野 時彦氏は「敷地の高低差を利用して千人テラスやデッキを配置することで各階を屋外で立体的につなぎ、まちの魅力を生み出すように動線計画にも配慮した。また、夜も魅力的にするためライトアップにも気を配った。とくに、ミュージアムは石造りの多面体なので模型やCGによるシミュレーションだけでなく、実際に光を当てて光源や照度を確認。結果として、夜景も素晴らしい空間になった。今後も人が集うまちとして成長してほしい」と語る。

▲（上）スタンディングで1,800人、着席で650人を収容できる「ジャパンバビリオン」のホールA
（下）松岡 正剛氏が本棚を編集したミュージアム4階のエディットタウン



ところざわサクラタウン

所在地／埼玉県所沢市東所沢和田
事業主／株式会社KADOKAWA、公益財団法人角川文化振興財団
デザイン監修／隈研吾建築都市設計事務所
設計／KAJIMA DESIGN
ミュージアム内装設計／株式会社丹青社
外構設計協力／株式会社ランドスケープデザイン
施工／鹿島建設株式会社
電気工事／株式会社関電工、住友電設株式会社
オープン／2020年11月

※オフィスに関してはP19「KADOKAWA 所沢キャンパス」に記載



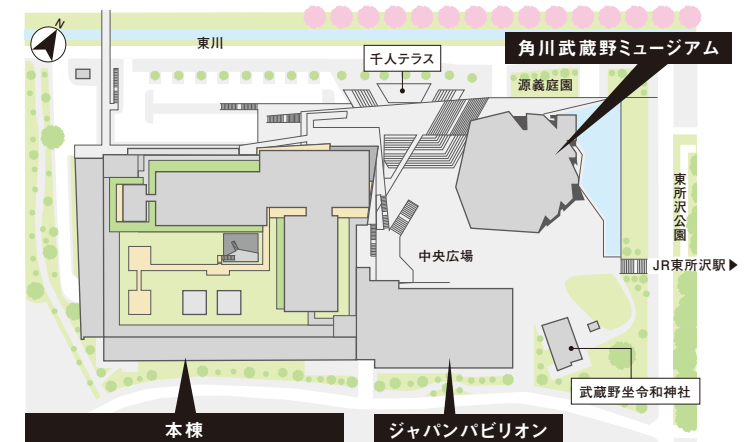
天井照明が星座のように配置されている「ジャパンバビリオン」のホワイエ



ミュージアム5階の「武蔵野ギャラリー」



多数の調光型LEDスポットライトが導入されたミュージアム1階の「グランドギャラリー」



本棟
EJアニメホテル、屋上庭園（6F）
オフィス「KADOKAWA 所沢キャンパス」（5F）
BECゲートウェイ（2～4F）
ショップ・レストラン（2～3F）
BECファクトリー（1F）

ジャパンバビリオン
ホールB（3F）
ホールA（2F）

主な納入設備

- LED建築部材照明器具
- LEDシーリングライト
- LEDグレアレスダウンライト
- LEDスポットライト
- LED建築化照明器具
- LED投光器
- 照明制御システム

ウェブサイトでも
ご覧いただけます



● 2021年 北米照明学会照明賞 メリット賞受賞



カフェとライブラリーが設けられたエントランス。フロア全体はスケルトン天井に配線ダクト照明が設置されている

KADOKAWA 所沢キャンパス

KADOKAWA TOKOROZAWA CAMPUS

広大なフロアを仕切らずレイアウトする エンターテインメント発信オフィス

出版や映像・アニメを手がけるKADOKAWAが世界に発信する文化複合施設として創り出した、ミュージアムやイベントホールに工場や物流倉庫までを備える「ところざわサクラタウン」。ここには「KADOKAWA 所沢キャンパス」と呼ばれる1,000人規模のオフィスも設けられ、東京・所沢・在宅など、どこでも働ける環境が整備された。「ところざわサクラタウンが多様な人たちに訪れてもらいたい施設を目指していることもあり、そこに共存するオフィスの在り方として、物理的に閉ざすことなく、約9,000m²の広大なスペースには極力

壁を設けず、ガラスを多用した透明性のあるオープンなワークプレイスを目指した」と、グループ戦略総務局 総務企画部 ファシリティ担当部長の荒木 俊一氏。「広大なオフィスの天井高が約6mあるので、4カ所に階段を上げる一般執務室のような場所『MORI』を設けて編集などの業務に対応した。この場所には天井を設けて、ダウンライトはサーカディアン照明にしている。これは、オフィスに居ても自然や時間の移ろいを感じられるようにという考えに基づいてのこと。このように閉ざされた空間を造らず、高低差やコンテンツによってディスタンスを確保することは、ニューノーマル時代における一つの解答ではないか」と語る。

KADOKAWA 所沢キャンパス

所在地／埼玉県所沢市東所沢和田
建築主／株式会社KADOKAWA
設計／株式会社FLOAT、株式会社オカムラ
デザイン企画／SUPPOSE DESIGN OFFICE株式会社
プロジェクトマネジメント／株式会社ディー・サイン
施工／鹿島建設株式会社、株式会社J.フロント建築、株式会社関電工
オープン／2020年8月



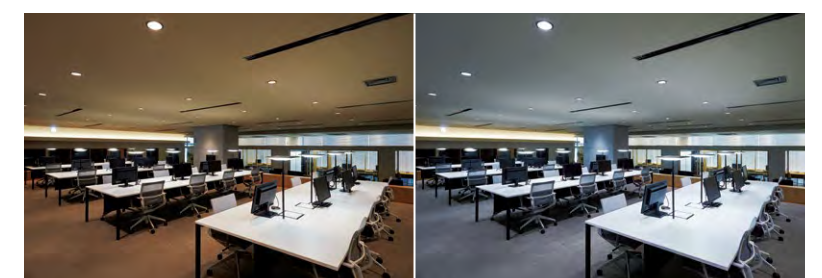
各部署には階段を上がる「MORI」と呼ばれる執務エリアが4カ所配置され、そこに天井が設けられている



開放的なワークスペース



屋上に繋がる階段が設けられた中庭



アンビエントの照度・色温度が変化するワークスペース「MORI」(左3000K/右5000K)

主な納入設備

- LED調光スポットライト
- LED調光調色ダウンライト
- LED建築部材照明器具

ウェブサイトでも
ご覧いただけます



豊橋市公会堂

Toyohashi Public Hall

多彩な建築様式を駆使した 昭和初期創建の公会堂

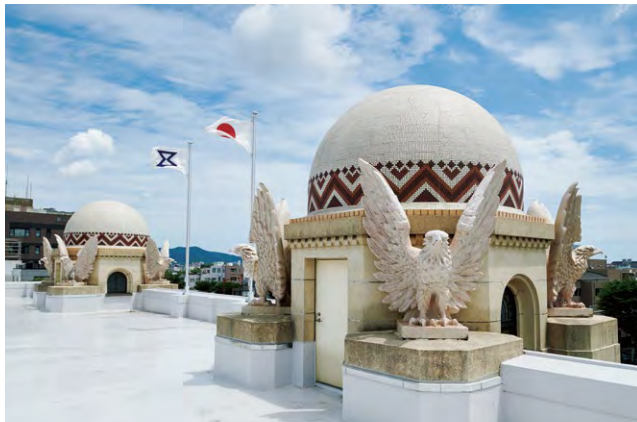
愛知県の豊橋市公会堂は、昭和6(1931)年、中村與資平の設計で豊橋市における初期の鉄筋コンクリート造建築として竣工した。ロマネスクなど多様な様式で飾られたファサードが特徴。昭和20年の豊橋空襲を免れ、今日も活用されている。国登録有形文化財。



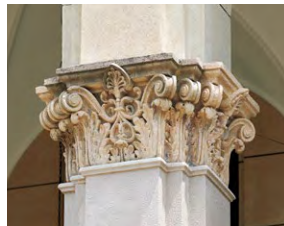
東アジアや日本で活躍した建築家・中村與資平が建設した豊橋市公会堂。竣工90年余を経てなお、風格ある佇まいで人びとを迎える。



来館者を直接、2階へ誘う大階段。こうした大階段を持つ公会堂は少ないといわれる。公会堂の建設は大正デモクラシーの時代に集会所を求める声が上がったことを背景としている。



豊橋市の未来をイメージした羽ばたく鷲のモニュメント。タイル張りのドームは、イスラム文化を思わせるとする説やスペイン風とする見方もある。



中村はこうした柱頭飾りを得意として、他の建築物でも使用している。



曲線が美しい階段。手すりは人造石研ぎ出し仕上げ。ポーチを望む窓にもステンドグラスがある。



来訪者は大階段を上り、列柱をくぐって2階玄関へ。ロマネスクの意匠が目玉。玄関の左右には切符売場がしつらえてある。



昭和天皇が訪問時に使用した3階特別室。白漆喰の天井は花座、壁との取り合い部分は渦巻き模様の持ち送りで装飾されている。左官技術が光る。



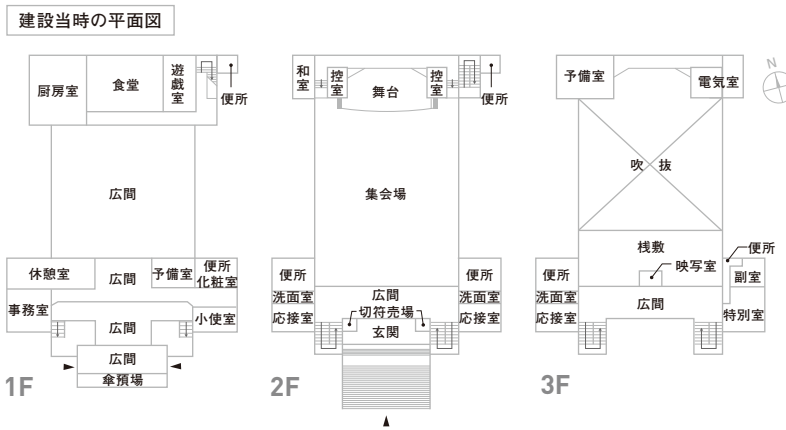
①集会場の座席は当初1,524席もあった(現在は601席)。②手動のつり物機構(綱元)。舞台上使う照明などをつり下げたバトンで綱を上げ下げする。

豊橋市公会堂は、第二次世界大戦まで陸軍の部隊が置かれた吉田城址(現豊橋公園)を背に、市役所や警察署が並ぶ国道沿いで威容を誇っている。竣工当時、路面電車*が公会堂正面に向かって伸びる大手通りを走っており、公会堂はランドマークとしても親しまれた。設計者・中村與資平は現在の静岡県浜松市出身。大学卒業後、辰野葛西事務所に入所し、わずか3年程で韓国での銀行建設を任された。その後、独立して帰国すると中村工務所を開いて東京や静岡で銀行や公共建築を多数、手掛けた。公会堂建設もこの時期で、豊橋市制

施行25周年にあわせ、昭和6年に竣工している。建物は、昭和初期の豊橋市ではさきげとなった鉄筋コンクリート造で、高さ約16m。堂々たる構えのファサードは、5連のアーチとコリント式柱頭飾りがある列柱、ドームと鷲の彫像を頂く2つの階段塔、大階段等で構成されている。大階段が正面から2階へ伸びていることも特徴である。採用された建築様式には諸説あるが、柱上の半円形アーチや軒先に回るロンバルディアバンド、列柱奥の玄関が傘を広げた形の交差ヴォールトの天井であることから、ロマネスク様式がベースといわれて

いる。一方、3階の双子窓はルネサンス様式、幾何学模様のモザイクタイルが貼られた階段塔のドームはビザンチン様式とする指摘もあり、こうした国際色豊かな様式を理解・採用した中村の力量が垣間見える。豊橋空襲で市街地の約90%が焼失したが、公会堂は被災を免れた。戦中に市役所として機能した他、2階集会場では今日までさまざまな文化活動が行われている。平成13年に大規模な改修が完了。竣工から90年余を経て、さらに将来に向け豊橋市のシンボルとして歴史を紡いでいく。

※豊橋電気軌道株式会社(現豊橋鉄道株式会社)



用語説明

【中村與資平】明治～昭和期に東アジアと日本で活躍した建築家。明治38(1905)年、東京帝国大学建築学科卒業、大正11(1922)年、帰国後に中村工務所開設。
【辰野葛西事務所】明治・大正期の名建築家・辰野金吾が明治36(1903)年に葛西萬治と開設。
【ロンバルディアバンド】イタリアのロンバルディア地方で盛んに使われたロマネスク建築の装飾。小柱列を小アーチで連結した装飾帯を外壁に配置する。
【交差ヴォールト】アーチを基本にした曲面天井(ヴォールト)を直角に交差させた際にできる天井。
【ルネサンス様式】15～17世紀初頭に、イタリアを中心に広くヨーロッパに普及した建築・美術様式。
【ビザンチン様式】4世紀頃から始まった東ローマ帝国(ビザンチン帝国)の建築・装飾様式。

愛知県豊橋市八町通二丁目22番地
協力:豊橋市、特定非営利活動法人 あいちヘリテージ協議会



マーケティング本部

北海道

北海道電材営業所
〒060-0809 札幌市北区北9条西2丁目1番地

東北

仙台電材営業所
〒980-0014 仙台市青葉区本町2丁目4番6号
仙台本町三井ビルディング内

関東

高崎電材営業所
〒370-0006 高崎市問屋町1丁目6番7号

首都圏

首都圏電材営業所
〒105-8301 東京都港区東新橋1丁目5番1号

首都圏特機

東京電設営業所
〒105-8301 東京都港区東新橋1丁目5番1号

中部

名古屋電材営業所
〒450-8611 名古屋市中村区名駅南2丁目7番55号

中部特機

名古屋電設営業所
〒450-8611 名古屋市中村区名駅南2丁目7番55号

近畿

大阪中央電材営業所
〒540-6214 大阪市中央区城見2丁目1番61号
OBPパナソニックタワー14F

近畿特機

大阪電設営業所
〒540-6217 大阪市中央区城見2丁目1番61号
OBPパナソニックタワー17F

中四国

広島電材営業所
〒730-8577 広島市中区中町7番1号

九州

福岡電材営業所
〒810-8530 福岡市中央区薬院3丁目1番24号

パナソニック リビング ショールーム

札幌

〒060-0809 札幌市北区北9条西2丁目1番地
☎0800-170-3820

仙台

〒980-0014 仙台市青葉区本町2丁目4番6号
仙台本町三井ビルディング1F
☎0800-170-3830

東京

(汐留)

〒105-8301 東京都港区東新橋1丁目5番1号
☎0800-170-3840

横浜

〒221-0056 横浜市神奈川区金港町2番6号 横浜プラザビル1F
☎0800-170-3841

名古屋

〒450-8611 名古屋市中村区名駅南2丁目7番55号
☎0800-170-3850

広島

〒730-8577 広島市中区中町7番1号
☎0800-170-3870

福岡

〒810-8530 福岡市中央区薬院3丁目1番24号
☎0800-170-3880



<https://sumai.panasonic.jp/sr/>

コーポレートショールーム パナソニックセンター

東京

(有明)

〒135-0063 東京都江東区有明3丁目5番1号
☎(03)3599-2600

大阪

〒530-0011 大阪市北区大深町4番20号
グランフロント大阪 南館(2F～B1F)
☎0800-170-3860



<https://www.panasonic.com/jp/corporate/center.html>

※開館日や時間を変更したり、事前ご予約制とさせていただく場合があります。
ショールームご来場の際には、ウェブサイトで事前にご確認ください。



継続能力開発(CPD) 自習型認定研修

設問

- 次のうち誤っているものはどれか。
- 国立アイヌ民族博物館は、東京・京都・奈良・九州に次ぐ日本8番目の国立博物館。
 - 新宿駅は、東京駅に次いで、日本2番目の利用者数を誇る巨大ターミナル駅である。
 - DMXとは、照明器具の調光・調色などをデジタル制御する通信規格である。

関連情報は本誌に掲載されています。

建築士会CPD制度の回答は下記WEBサイトから。
<https://www.kenchikushikai.or.jp/cpd-new/cpd-index.html>

この情報誌は、公益社団法人 日本建築士会連合会の継続能力開発(CPD)の「自習型認定研修」教材として認定されています。

お問い合わせ

☎ (06) 6908-1131・大代表

💻 パナソニックの空間ソリューション

<https://www2.panasonic.biz/ls/solution/>



皆様のご意見をお聞かせください



・NAKED, INC. VR GOGGLES
・JAMSTEC監修【解説書】付

皆様のお役に立てるよう、「建築設計REPORT」の編集内容をより充実させていきたいと考えています。下記サイトにアクセスいただき、5問程度のアンケートにご協力ください。

抽選で10名様に「[NAKED, INC. VR] NAKED OCEAN」を差し上げます。
【応募締切】2021年10月31日(日)



<https://www2.panasonic.biz/ls/solution/report/archi/qe/>